

Q1： 学力向上に向けて、どのような取組をしていけばよいでしょうか。具体的な取組について紹介してください。

本県の教育課題の一つとして、子どもたちの学力向上が挙げられます。各学校においては、全教職員による調査結果の分析や課題解決に向けての校内研修が行われるなど、学習指導に関わる組織的な取組が進められ、全県的に学力向上の気運が高まりつつあります。

ここでは、学力向上のために効果的と思われる取組を紹介しますので、ぜひ参考にしてください。

【取組1】研修の充実

【取組2】「ねらいの提示」「振り返る活動」の充実

【取組3】調査問題の活用

平成28年度学力向上アドバイザー派遣事業「学力向上実践事例集」（県教育委員会 H29.3）の中にも、共通した学校課題のもと小中連携を活性化させた事例が掲載されています。

1 研修の充実

学校がよりよい教育を行うためには、教職員一人一人の資質・能力の向上とともに、学校の組織力を高める必要があります。学力向上改善プランの作成、具体的な方策の実践など、全教職員が当事者意識をもって、今まで以上に全校体制で児童生徒の確かな学力の向上に取り組む必要があります。【1】管理職のリーダーシップ

一人一人の教職員が力を発揮し、学力向上に向けた取組を充実させるために、管理職や学力向上担当者は、研修の重要性を伝えるとともに、自校の課題や取組内容を理解させ、その徹底に努めることが大切です。

【2】研修体制の工夫

学校規模や学校の実態に応じた研修体制を工夫することが大切です。ミドルリーダーを積極的に活用して部会（チーム）を編成したり、一人一人の教職員が役割に応じて力を発揮できる場や機会を設けたりすることが重要です。また、「学校全体で共有すること」と「部会（チーム）で実行すること」を明確にして取り組むことが必要です。

<取組例>

指導案検討の際には、授業者だけでなく、全教職員が関わることが重要です。

中学校においては、教科担任制ですが、担当以外の教科等の検討に積極的に関わることで、指導方法の工夫や生徒の様子について共有することができます。

また、複数のクラスのある小中学校では、プレ授業を実践することで、より効果的な指導方法について協議することができます。

【3】研究授業・授業研究会の充実

- 研究授業の際には、授業の観点を設定することで、授業研究会において、共通の課題のもとに協議を進めることができます。
- 研究授業では、児童生徒の顔が見える位置に立つことで、表情やつぶやき、取組の様子や変容に気付くことができます。
- 授業研究会では、司会者が中心となり、観点をもとに協議を行います。参考になる点や気になった点を記入した付箋紙を活用し、グルーピングすることで、成果と課題が捉えやすくなります。その際には、特に話題になった課題の対応策を話し合うことが大切です。
- 日頃の実践に生かすために、自分の指導に生かせる視点での振り返りを設定すると効果的です。



<参考資料> 「組織力の向上を図る校内研修の充実」（総合教育センター H22.11）

3 調査問題の活用

全国学力・学習状況調査問題は、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示した問題です。学校においては、子どもたちに求められている学力について知り、自校の取組や教師の指導の改善に役立てることが大切です。とちぎっ子学習状況調査問題においても同様です。

【1】年間指導計画への位置付け

関連表をもとに自校の年間指導計画に位置付けます。職員室の掲示板に関連表を掲示することで、いつでも誰でも確認できるようにすることも効果的です。

【2】本時の課題としての活用例

中学校1年地理において、「平成28年度とちぎっ子学習状況調査中学校2年社会」**4**の問題を活用し、下のように本時のめあてを設定しました。

<めあて>

「北アメリカ州の気温と降水量の分布」「アメリカとカナダの農業分布」「アメリカと日本の農業規模」から読み取れることをまとめて、分かりやすく説明しよう。

【3】本時の振り返り（適用問題）としての活用例

小学校5年生の算数「小数のわり算」において、「平成28年度全国学力・学習状況調査小学校算数A」**1**の問題を活用し、本時の学習内容が身に付いたかどうかを評価しました。

<振り返り> (ア) (イ) (ウ) に入る数を書きましょう。

$$\begin{array}{ccc} 2.1 & \div & 0.7 = (ウ) \\ \downarrow & 10をかける & \downarrow 10をかける \\ (ア) & \div & 7 = (イ) \end{array}$$

【4】単元末・学年末における活用

調査問題を単元末に活用することで、単元で身に付けるべき学習内容が身に付いているかどうかを評価することができます。また、1月から3月の学年のまとめの時期に、学力向上強調月間を設定し、調査問題を有効に活用することも効果的です。

【5】朝の学習における活用

朝の学習の時間にパワーアップシートを活用し、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図ることもできます。担任以外の教職員も関わることで効果を上げることができます。

<取組例>

学力向上コーナーを設置し、棚の中に印刷したパワーアップシートを入れておきます。児童生徒は、自分に合ったパワーアップシートに取り組みます。休み時間や家庭学習にも取り組むことができます。

【6】校内研修での活用と改善への取組

校内研修において、課題となる設問を解いてみることも大切です。児童生徒の解答状況に着目すると、授業改善のヒントが見えてきます。

<取組例>

「平成28年度全国学力・学習状況調査小学校国語A」において、ローマ字が課題としてあげられました。そこで、右のようなカード（A3版）を作成し、昇降口に掲示しました。児童は、毎日の生活の中で、ローマ字と関わるすることができます。



2 「ねらいの提示」「振り返る活動」の充実

本県では、子どもの確かな学力を向上させるために、授業改善に向けた具体的な取組を提案しています。特に、「ねらいの提示」「振り返る活動」が、児童生徒と共有できているか、学習意欲の向上、学習内容の確実な定着につながっているか、再度、確認する必要があります。

【1】全職員での共通理解

「ねらいの提示」「振り返る活動」を授業に位置付けることを共通理解します。また、「学習のきまり」「ノートの記入のきまり」にも「ねらい」や「振り返り」を示し、児童生徒にも必要性について伝えます。

<取組例>

教室や廊下等に掲示することで、いつでも、どこでも、誰でも意識できるようにしています。

授業改善に向けた3つの視点

- 視点1 授業の目標(めあて・ねらい)を子どもたちに示すこと
- 視点2 授業を振り返る活動を行うこと
- 視点3 どの子にも自分の考えを書く習慣を付けさせること

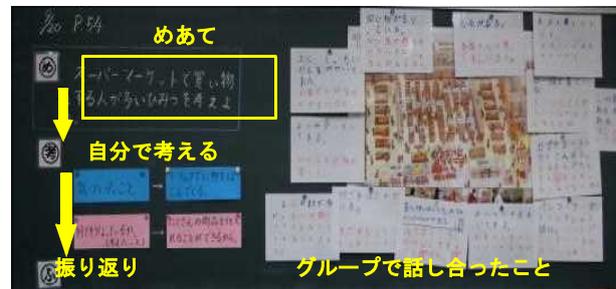
授業における指導・習慣化として

塩谷市部課教育事務所

- ☆ 授業開始時刻の遵守
- ☆ 始めと終わりのあいさつの徹底
- ☆ 「明確なねらいの提示」と「授業の振り返りの充実」

【2】1時間の学習の流れが分かる板書の工夫

「ねらいの提示」「指導」「振り返る活動」のつながりを意識した授業づくりが大変重要です。1時間の学習の流れが分かる構造的な板書をする事で、「この学習を通して何が分かったのか」学んだ内容を再確認することができます。



〈構造的な板書の例〉

【3】チェック機能の充実

「ねらいの提示」「振り返る活動」を充実させるために、定期的に取り組状況を自己チェックし、授業の質を高めていくことが大切です。また、教職員同士で授業を参観し合ったり、管理職によるチェック及び指導助言をしたりすることも大切です。

下のチェック表を活用し、授業改善に生かしてください。

<授業改善に向けた3つの視点のチェック表>

〈参考資料〉リーフレット「授業改善に向けた3つの視点」

| | チェック項目 | 評価 |
|----------------------------|--|---------|
| ね ら い の 提 示 | ◆ 本時の学習指導を通して身に付けさせたい力を明確にした上で「ねらい」を設定していますか。 | A B C D |
| | ◆ 「ねらい」を設定する際、先生と児童生徒のやりとりを大切にしていますか。 | A B C D |
| | ◆ 児童生徒の実態に応じて、学習意欲を高められるように「ねらい」の表現を工夫していますか。 | A B C D |
| | ◆ 「ねらい」から「振り返り」までのつながりを意識していますか。 | A B C D |
| 振 返 り | ◆ 本時の学習を通して、子どもたちが何が分かったのか、何ができるようになったのか等、自分の学びを振り返る時間を確実に位置付けていますか。 | A B C D |
| | ◆ 発達の段階に応じて、振り返る活動を重視していますか。 | A B C D |
| | ◆ 児童生徒の振り返りから学習状況を把握し、本時の「ねらい」を達成できたか確認（評価）し、次時の授業に生かしていますか。 | A B C D |
| 書 く | ◆ 授業の中で、自分の考えを書く活動を意図的に位置付けていますか。 | A B C D |
| | ◆ 書く活動と「説明」「話し合い」などを関連付けていますか。 | A B C D |